

毎週月・木曜日発行(週2回)

2015年(平成27年)8月20日

産官学 多彩な顔ぶれ

東北みずの会 定期総会・研修会

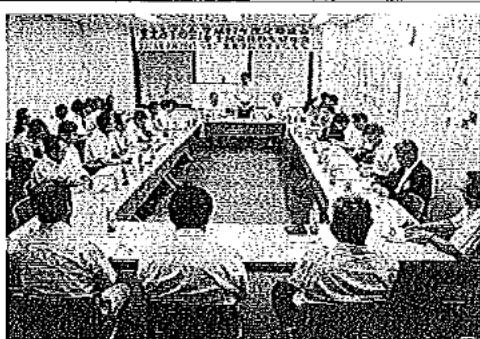
東北みずの会(会長リ
石橋良信東北学院大学教
授)は7月25日、仙台市
内で27年度定期総会および第1回会員相互研修会
を行った。研修会では東
北大の西村修教授、気
仙沼市ガス水道部の成田
匡邦技術主任、トーマツ
の大嶋雄生公認会計士の
産官学の3人が講師として
話題提供を行い、出席

者と意見交換を行った。
休日にもかかわらず約50
人が参加し、事業体のト
ップや現場担当者をはじめ、民間、学術界などから
多彩な顔ぶれが集まつた。

研修会冒頭、石橋会長
があいさつ。「人口減少
問題の影響が小さい都市
部と東北とでは、問題に
対する考えにずれがあり、深刻な状況の打開には
われわれ自身で対処し



石橋会長



あわせ意見交換

強い意思を示し、研修会の議論に期待を寄せた。成田主任は「震災復興の現状と中小事業体の抱える課題(今後の事業実施体制の確保方法)」、成田主任は「震災復興の現状と中小事業体の抱える課題(今後の事業実施体制の確保方法)」、西村教授は「水道システムにおける生物障害の問題と対策」、大島公認会計士は「地方公営企業会計の改正と経営戦略」をテーマに講演。

このうち成田主任は現
在、東日本大震災の復興
担当部署に所属している
ことから、気仙沼市の震
災復興事業の現状とその
対応体制を話の起点に、

東北みずの会は昨年10
月に設立会が行われたの

に、今年1月には厚生労
働省健康局の宮崎正信水
道課長を招いての研修会
を、4月には設立記念講
演会を実施。以降も協賛
活動などを積極的に展開
している。

総会では26年度事業報
告ならびに、27年度活動
方針として「会員相互の
新陸▽社会貢献活動▽東
北みずの会普及活動」の3案を審議了承した。
会員は現在約70人。

独での人員確保やエンジニアの雇用は困難。今後は計画段階から維持管理面まで長期にわたって技術水準を担保する委託手法が必要」と主張。下水道事業団を例に挙げながら、水道事業における地方公共団体およびその事業の性格に沿った官民連携手法や外部委託の受け皿の必要性を語った。これを受け、会員らは中小事業体における官民連携の方向性等で意見を交わした。